

# 2010年度決算の概要

2011年4月28日  
住友金属工業株式会社

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

本資料には、新日本製鐵株式会社および住友金属工業株式会社間の経営統合の成否およびその結果にかかる「将来予想に関する記述」に該当する情報が記載されています。本資料における記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これら将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた両社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しています。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示される両社または両社のうちいずれか一社（または統合後のグループ）の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。両社は、本資料の日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、今後の日本国内における公表および米国証券取引委員会への届出において両社（または統合後のグループ）の行う開示をご参照ください。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) 日本国内外の経済情勢。
- (2) 鋼材需給、原材料価格、為替相場の変動。
- (3) 借入金、社債等の金利の変動、その他金融市場の変動。
- (4) 有価証券等の保有資産（年金資産を含む）価値の変動。
- (5) 事業活動にかかる法令その他規制（環境規制を含む）の変更。
- (6) 海外の主要市場における関税引き上げ、輸入規制等。
- (7) 災害、事故等に起因する事業活動の停止、制約等。
- (8) 経営統合の詳細について当事者すべてが満足する合意に至ることができないことその他本件取引が実施できないこと。
- (9) 統合後のグループにおいてシナジーや統合効果の実現に困難が伴うこと。

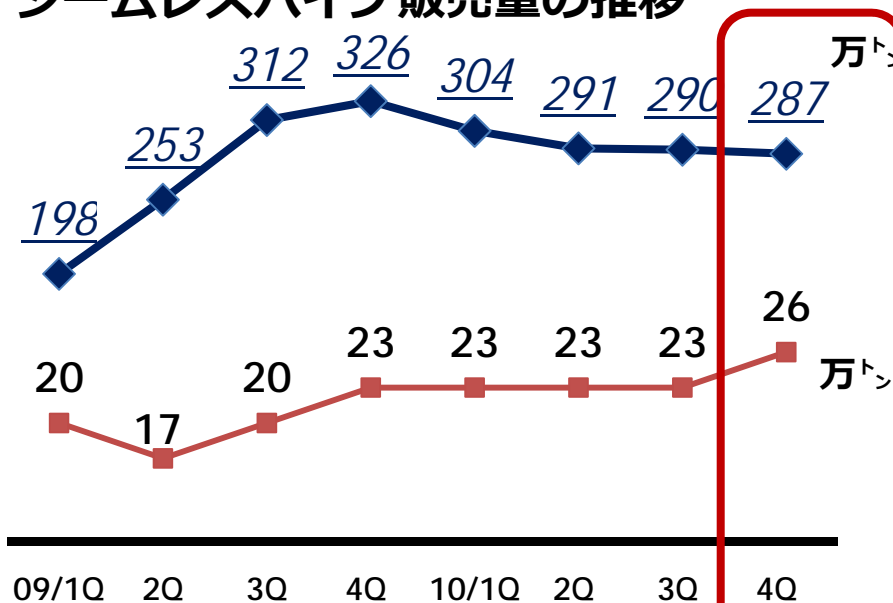
なお、本資料中、「粗鋼生産量」「鋼材販売量」「鋼材平均価格」と記載しているものは、(株)住友金属小倉、(株)住友金属直江津、(株)住金鋼鉄和歌山を含んだ数値となっております。

本資料中のEBITDAは、営業利益+減価償却費（有形）で算定しております。

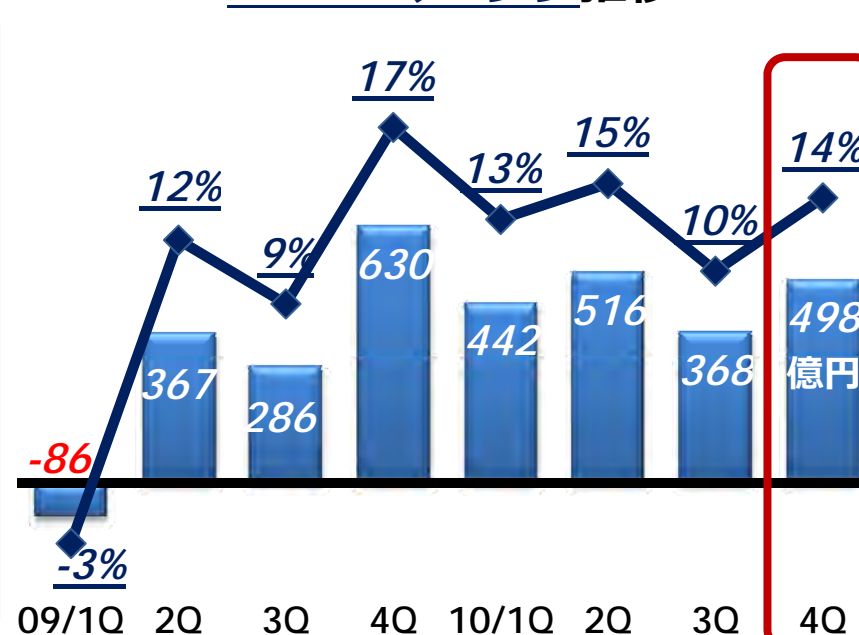
# 10年度決算ハイライト

	10年度	(前年度比)	
● 売上高	14,024億円	(1,166億円)	● 東日本大震災で被災した鹿島製鉄所 復旧費用・操業度損を主体に620億円 の特別損失を計上
● 営業利益	563億円	( 572億円)	● 営業利益は震災影響はあったが、 ほぼ前回予想通りの563億円
● 経常利益	340億円	( 706億円)	● 期末配当は1.0円/株 (通期3.5円/株)
● 特別損失	△620億円	(△589億円)	
● 当期損失	△ 71億円	( 426億円)	
● EBITDA	1,825億円	( 626億円)	

全社販売量と  
シームレスパイプ販売量の推移



四半期別EBITDAと  
EBITDAマージン推移



# 鹿島製鉄所の被災状況と復旧状況

- ・ 3/11 の地震で鹿島では震度6弱を記録、大津波警報発令により全工場を休止、人的被害無し
- ・ 当日中に災害復旧本部を設置、復旧計画を立案し順次設備立上げ
- ・ 4/25には、全工場で生産を再開。5月末での平常操業復帰を目指す



倒壊した出荷クレーン



和歌山から移送した出荷クレーン



損傷したガス配管(↑)と  
復旧後(↓)

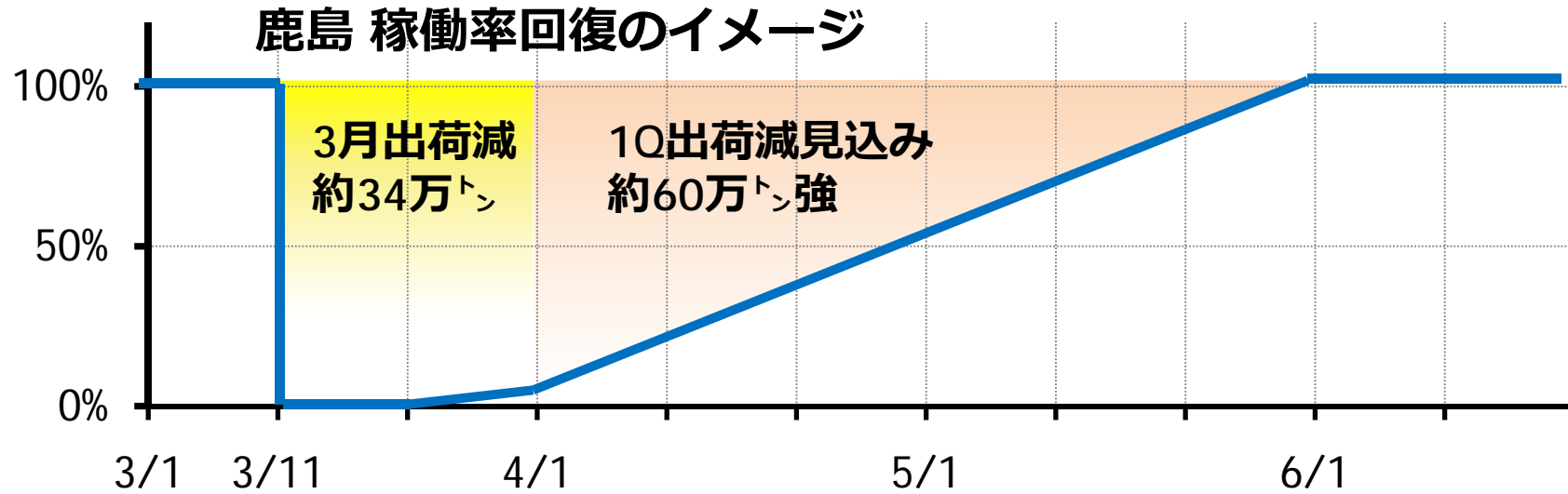


第1高炉羽口開孔作業

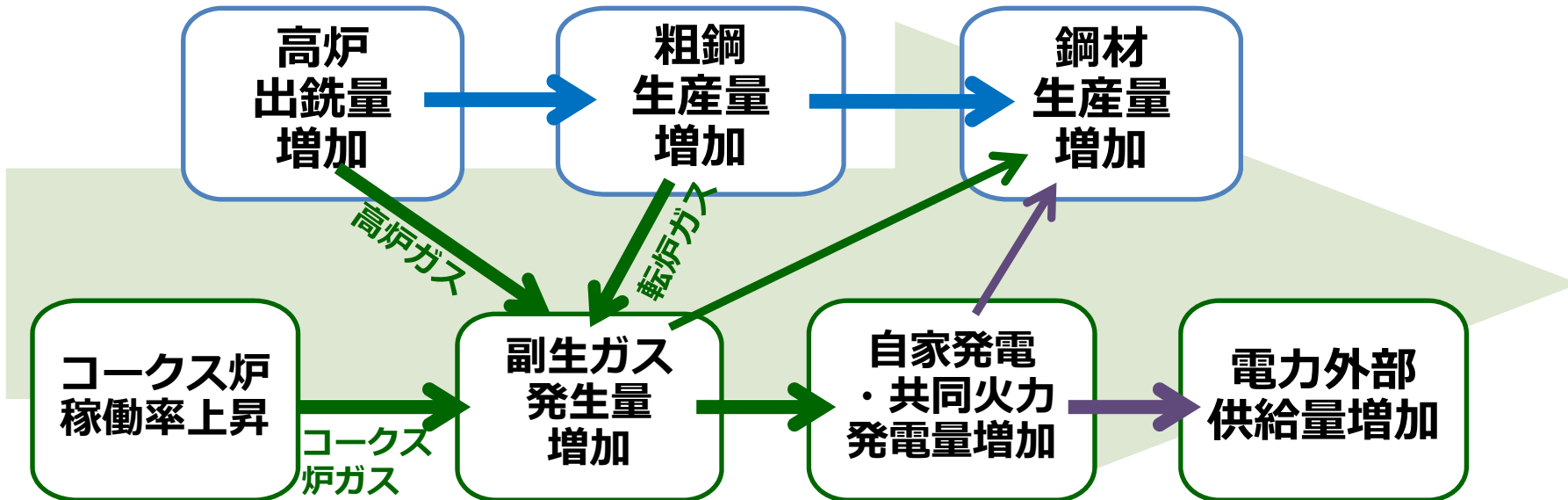


圧延を再開した熱延工場 (4/12)

# 鹿島製鉄所復旧スケジュール



## 製鉄所のガスバランス



# 震災影響リカバリープラン

通常の経営施策に追加のリカバリープランを実行中。  
 税前キャッシュフロー影響を11年度中に50%以上をカバーする。

億円	リカバリー内容	内11年度中に実行
設備投資時期繰延べ等	300	90
コスト/経費圧縮の上積み	550	240
10年期末・11中間配当水準	140	140
固定費他	30超	30超
<b>税前キャッシュフロー改善計</b>	<b>約1,000</b>	<b>500超</b>

## ＜参考＞ 震災被害額

億円			2カ年計
	10年度	11年度見通し	
経常利益への影響	( $\Delta 20$ ) $\Delta 20$	$\Delta 50$ 程度	
特別損失	( $\Delta 600$ ) $\Delta 620$	$\Delta 150$ 程度	
<b>税前利益への影響</b>	<b>(<math>\Delta 620</math>) <math>\Delta 640</math></b>	<b><math>\Delta 200</math>程度</b>	<b><math>\Delta 840</math>程度</b>

( ) 4/14開示内容      復旧設備投資       $\Delta 200$  程度

上記の内、税前キャッシュフローへの影響       $\Delta 1,000$ 程度

# 11年度経営課題と業績見通し

## ●主要経営課題

鹿島製鉄所の  
速やかな復旧

- 5月末での平常操業復帰
- リカバリープランの推進

原料価格  
高騰対応

- コスト削減の強化
- 販売価格改定

グローバル  
プロジェクトの推進

- ブラジルー貫製鉄所（VSB）の円滑な立上げ
- ベトナム（薄板）、タイ（厚板）等の建設推進

新日本製鉄との  
経営統合協議

- 経営統合協議の着実な推進

## ●11年度業績見通し

海外鋼材需要は引続き増加が見込まれるが、震災による国内ユーザー各位の影響等、経済動向は極めて不透明なことから、現時点での適切な算定は困難、算定が可能となった時点で速やかに開示する。

# 2010年度決算実績



# 10年度 販売量等の実績

※住金小倉、住金直江津、住金鋼鉄和歌山を含む  
 ※見通しは全て概数

9

円高影響はあったが、鋼材平均単価は09/4Q→10/4Qで13.6千円/tの改善

	09年度		10年度				〔2/4見通し〕	10年度	09年度増減	
	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q				
為替レート (円/\$)	91	93	92	86	83	82	[86]	86	7円高	
粗鋼生産量 (万トン)	332	1,165	335	343	300	313	[1,350]	1,290	125	
鋼材販売量 (万トン)	326	1,089	304	291	290	287	[1,207]	1,172	83	
シームレスパイプ 販売量(万トン)	23	79	23	23	23	26	[95]	96	17	
鋼材 平均単価 (千円/トン)	国内	89.8	93.3	92.7	103.6	105.5	104.7	[101]	101.5	8.2
	輸出	78.2	82.4	82.3	86.4	86.3	90.6	[87]	86.3	3.9
	平均	84.3	88.0	87.7	95.6	95.9	97.9	[94]	94.2	6.2

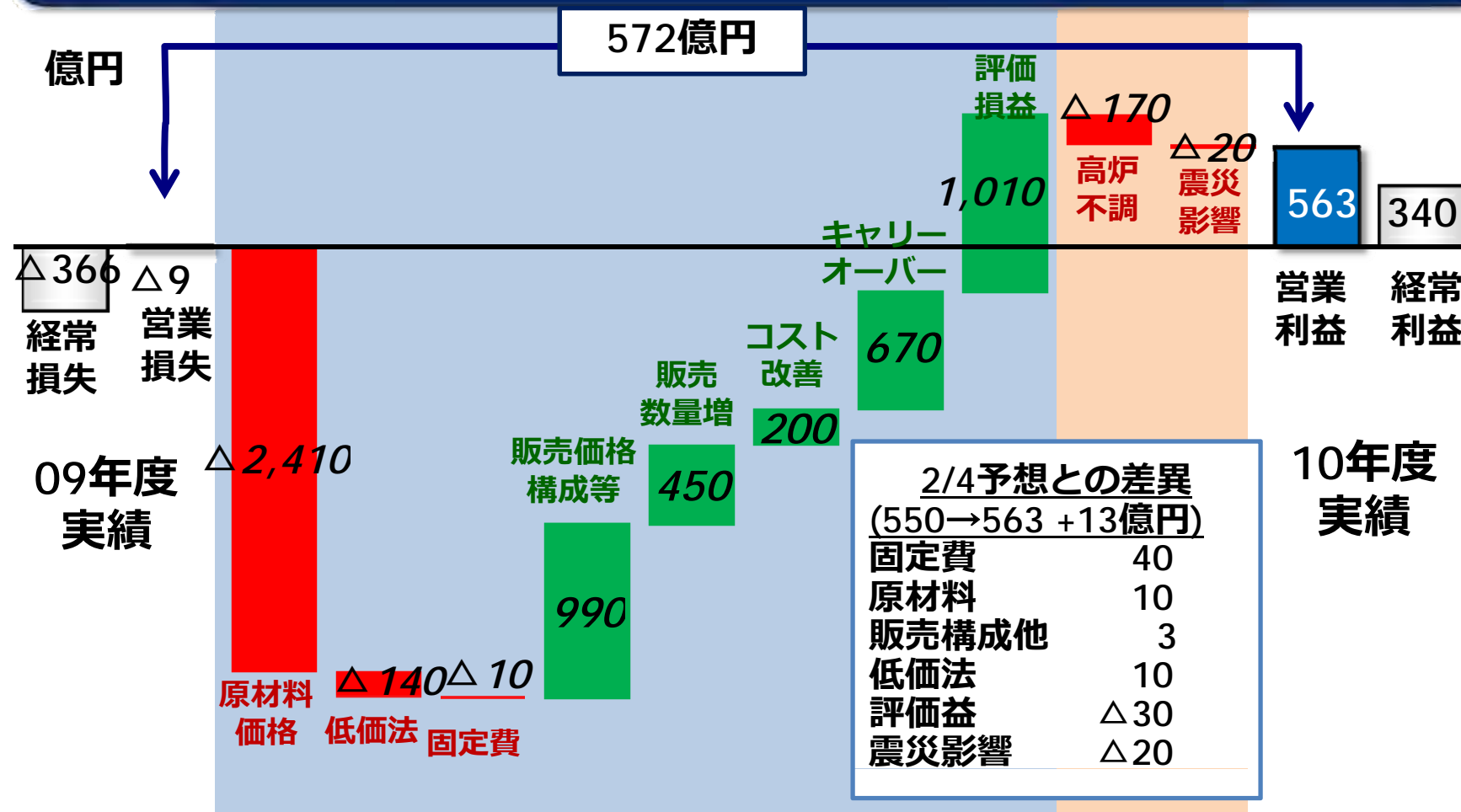
億\$	09年度	10年度		
		上期	下期	
受取	46	25	27	52
支払	△39	△26	△26	△52
外貨バランス	7	△1	1	0

# 10年度決算概要

億円	09年度	10年度						増減		
		1Q	2Q	3Q	<sup>2/4</sup> 見通し	4Q	<sup>2/4</sup> 見通し	10年度	09→10	3Q→4Q
売上高	12,858	3,416	3,521	3,519	[3,942]	3,566	[14,400]	14,024	1,166	46
営業利益	△9	142	204	49	[152]	165	[550]	563	572	115
経常利益	△366	94	194	△20	[31]	71	[300]	340	706	92
特別損益	△31	-	-	-	[-]	△620	[-]	△620	△589	△620
法人税等 少数株主損益	△100	△50	109	21	[△130]	128	[△50]	208	308	106
当期純利益	△497	44	304	0	[△99]	△420	[250]	△71	426	△421
1株当り 純利益(円)	△10.74	0.97	6.56	0.01	[△2.14]	△9.08	[5.39]	△1.54	9.20	△9.09
EBITDA (億円)	1,199	442	516	368	[522]	498	[1,850]	1,825	626	129
為替レート (円/\$)	93	92	86	83	[85]	82	[86]	86	7円高	1円高

# 営業利益増減 (09年度→10年度)

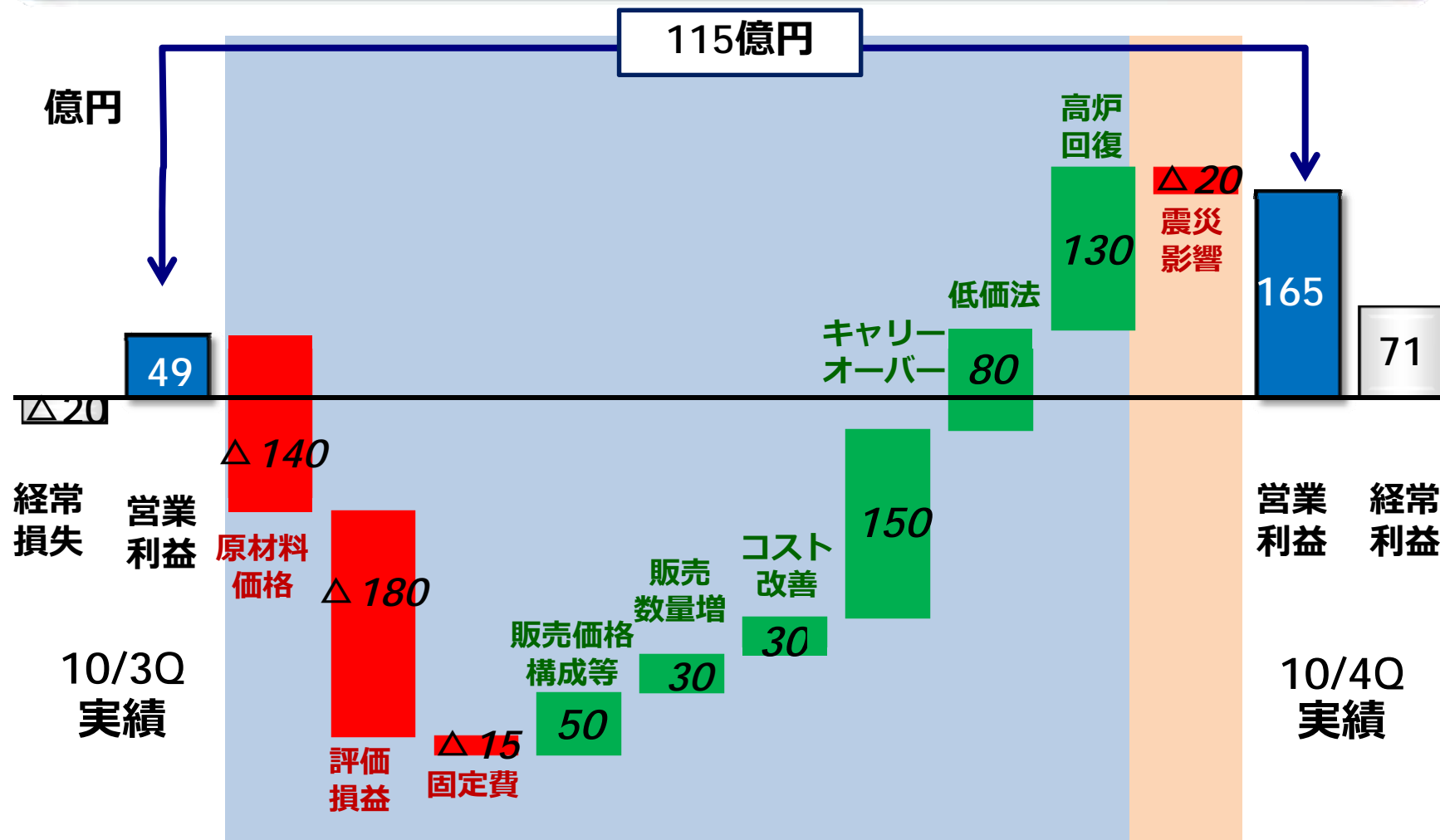
高炉不調影響、震災影響はあるものの、販売数量の増加・コスト改善や販売価格改善に加え、評価益やキャリーオーバー等の要因もあり、572億円の営業利益好転



●持分法損益 <09年度> △225億円 → <10年度> △34億円

# 営業利益増減 (10/3Q→10/4Q)

震災影響はあったが、高炉操業の回復に加え、コスト改善等により  
営業利益は115億円の増加



●持分法損益 <10/3Q> △22億円 → <10/4Q> △68億円

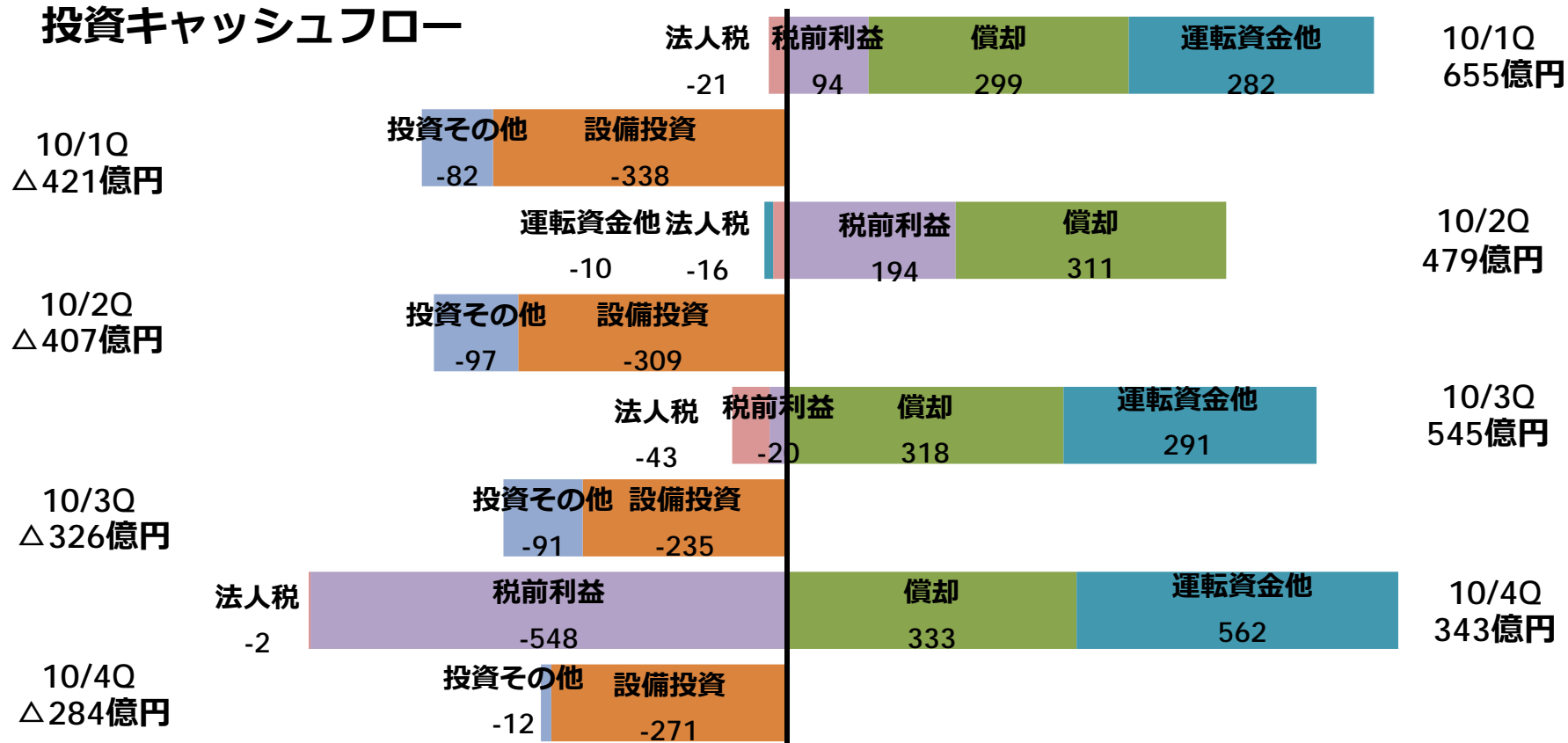
流動負債増加は、手許資金を厚くするためのCP発行増加と  
災害損失引当金増加の影響 → ネット借入金は12E比横ばい

億円	10				11	%	10/3E 増減
	3E	6E	9E	12E	3E		
【資産】							
流動資産	6,064	6,079	6,226	6,189	6,479	6.8	414
固定資産	17,972	17,754	17,752	17,936	17,928	△0.2	△44
資産合計	24,036	23,834	23,978	24,126	24,407	1.5	370
【負債および純資産】							
流動負債	6,393	6,661	6,615	6,995	8,006	25.2	1,612
固定負債	8,851	8,716	8,679	8,492	8,220	△7.1	△630
純資産	8,792	8,456	8,682	8,637	8,180	△7.0	△611
借入残高	11,383	11,280	11,170	11,111	11,733	3.1	350
D/Eレシオ	1.37	1.42	1.37	1.37	1.53	-	-

# 10/4Q キャッシュフローの状況

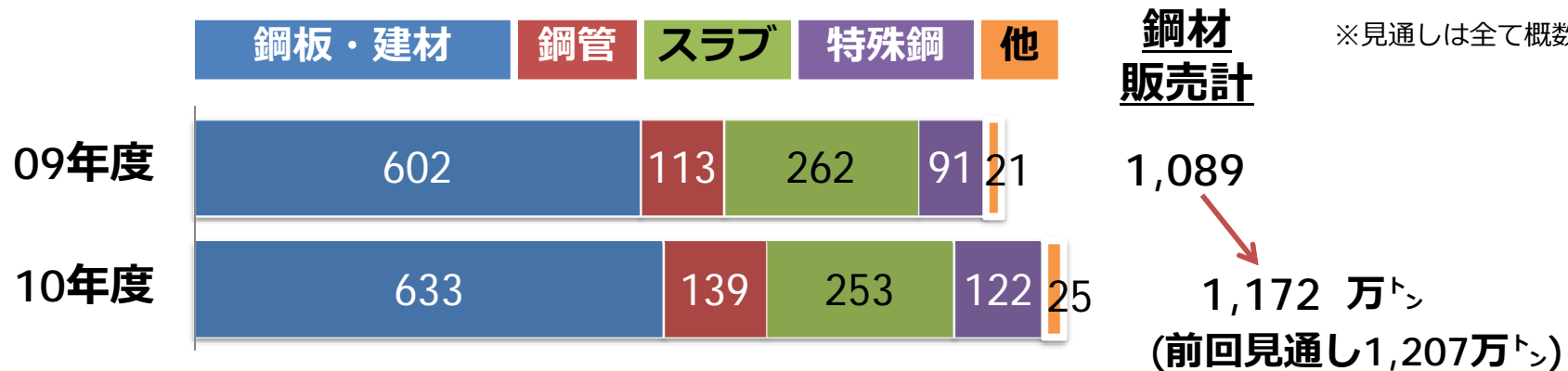
## 営業キャッシュフロー

### 投資キャッシュフロー



	10/3E	10/6E	10/9E	10/12E	11/3E
借入金	11,383 億円	11,280 億円	11,170 億円	11,111 億円	11,733 億円
現預金	262 億円	236 億円	189 億円	197 億円	825 億円
ネット借入金	11,121 億円	11,043 億円	10,981 億円	10,913 億円	10,908 億円

# 鋼材品種別販売状況



## 品種別の震災影響

	10/4Qの状況	11/1Qの状況
鋼板・建材	鹿島影響 Δ31万トﾝ	鹿島影響
鋼管	〃 (大径管) Δ 3万トﾝ	〃 (大径管) Δ60万トﾝ強
スラブ		〃 和歌山→鹿島応援スラブ増により 国内向けの調整をご依頼
特殊鋼		建機向けは好調だが、自動車向けで 部品生産減少影響が見込まれる
交通産機他		

# シームレスパイプ需要・販売の状況

## ● OCTG / Line Pipe

- ➡ エネルギー価格高騰傾向により、各地域とも掘削活動は回復・活性化
- ➡ 市況は原料価格の転嫁もあり、上昇傾向継続中

## ● 特殊管

- ➡ SG管需要は現在のところ堅調であるが、今後の影響等につき注視していく。
- ➡ 石炭火力超々臨界発電用ボイラーチューブは、10年度をボトムとして回復傾向
- ➡ 天然ガスを燃料とする排熱回収ボイラ（Heat Recovery Steam Generator）向け鋼管需要が増加傾向

## ● 自動車・建機向け

- ➡ 自動車向けで一部震災影響が出ているが、現時点では影響は軽微

リグカウントの状況	08年平均	09年平均	最近のピーク		最近のボトム		直近	
米国	1,879	1,089	<100>	(08/9) 2,031	<43>	(09/6) 876	<89>	(11/4/21) 1,800
深井戸 (≥15,000ft)	283	249	<100>	(11/2) 404	<52>	(09/6) 211	<93>	(11/3) 377
北米・露・中 を除く世界	1,079	997	<100>	(11/2) 1,189	<80>	(09/8) 947	<96>	(11/3) 1,147

出所: Baker Hughes, Smith international



# セグメント・カンパニー別売上高等の状況

## セグメント・カンパニー別売上高

※見通しは全て概数

億円	09年度					〔2/4 見通し〕	10年度	年度 増減
		1Q	2Q	3Q	4Q			
鋼板・建材	4,985	1,356	1,437	1,412	1,290	[5,800]	5,496	510
鋼管	4,729	1,220	1,214	1,273	1,358	[5,100]	5,067	338
交通産機品	866	234	250	232	273	[1,000]	991	124
住友金属小倉	1,016	304	367	374	401	[1,450]	1,447	430
住友金属直江津 他	460	130	129	122	131	[550]	514	53
鉄鋼セグメント計	12,058	3,246	3,398	3,415	3,454	[13,900]	13,516	1,457
その他	799	169	122	104	112	[500]	508	-291
売上高計	12,858	3,416	3,521	3,519	3,566	[14,400]	14,024	1,166

### (参考) 鉄鋼セグメント主要カンパニー営業利益 (概数)

鋼板・建材	△40	60	110	△60	50	[170]	160	200	
鋼管	鋼管	160	0	40	40	80	[150]	160	0
	スラブ	△200	20	△30	10	△50	[△60]	△50	150
住友金属小倉	△70	0	20	20	20	[60]	60	130	

鉄鋼セグメント計	△76	126	184	34	156	[480]	502	578
その他	66	16	21	15	8	[70]	62	-4
営業利益計	△9	142	204	49	165	[550]	563	572

# 利益配分に関する基本方針及び配当予想

## 利益配分に関する基本方針

- 「質」と「規模」のバランスの取れた持続的成長を通じて企業価値を最大化
- 事業が生み出すキャッシュは、企業価値を高める投資に充当
- 投資戦略は以下を基準に実施し、その成果を株主の皆様に還元
  - ➡ 差別化の加速に資する投資であること
  - ➡ 資本コストを上回る便益をあげて企業価値向上に貢献すること
- 配当は安定配当を基本とする

## 財務体質運営指針

- D/Eレシオで 1.0未満を目標として運営

## 当期（11/3月期）配当予想

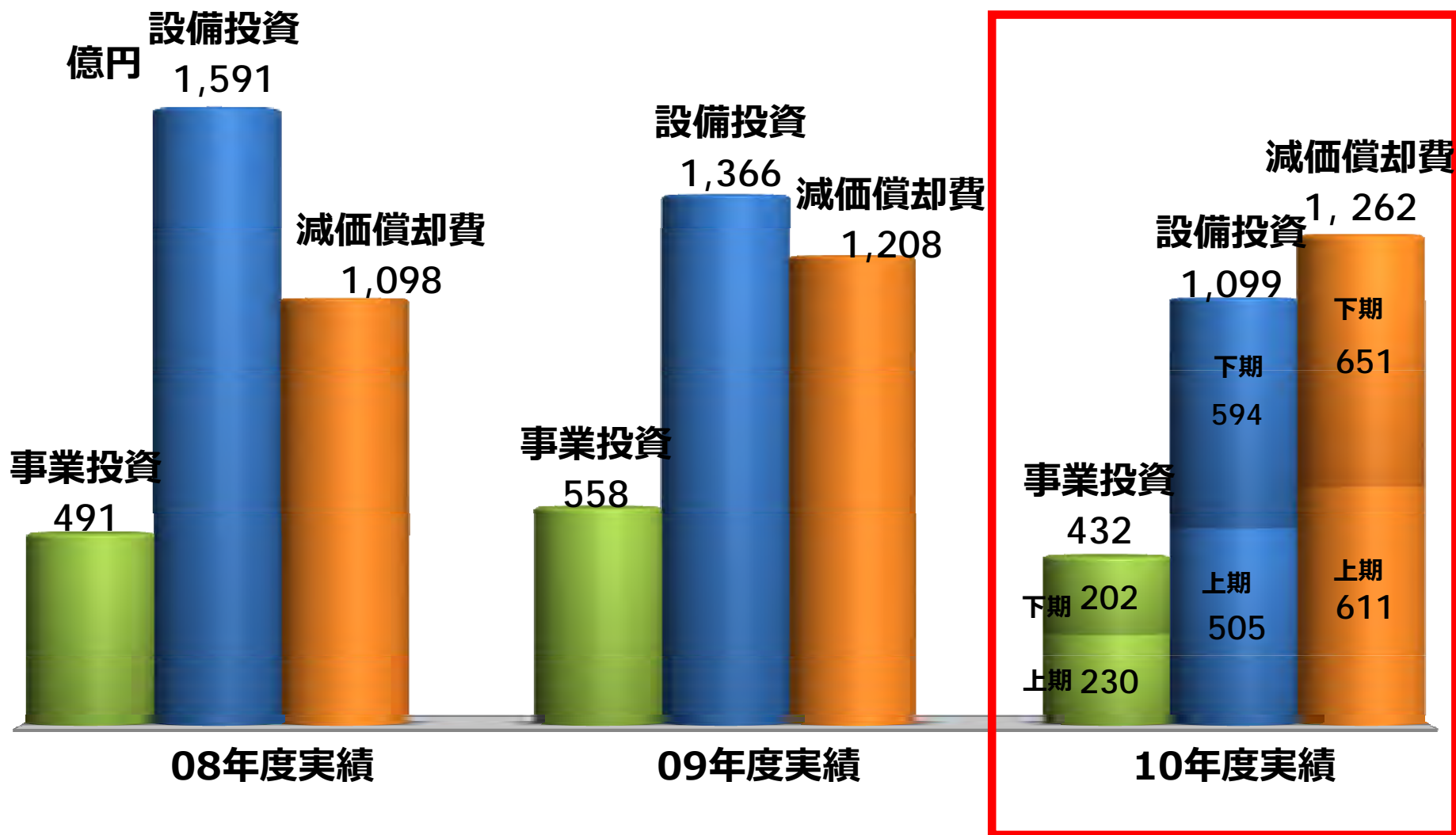
- 3.5円/株（中間配当 2.5円/株, 期末配当 1.0円/株）

## 来期（12/3月期）配当予想

- 中間配当 1.0円/株, 期末配当 未定

# 事業投資・設備投資・減価償却費の見通し

設備投資額は工事ベース  
事業投資額は支払いベース



# 主要設備投資・事業投資の進捗

稼動予定年月で記載		投資額	FY09	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14
設備投資								
鋼管	和歌山上工程更新 新第1高炉+環境対応強化等 新第2高炉+CC増強等	1,600 億円 1,150 億円	→ 09/7					
	超高強度ラインパイプ増産	100 億円			→ 11/1			
	原子力発電用SG管増産	140 億円					→ 13/4	
その他	住金小倉製鋼プロセス革新	270 億円			→ 10/10			
	総合技術研究所に1-7ル機能強化	100 億円					→ 12/5	
事業投資 (*JVの場合の投資額はJV合計額 []は当社出資額)								
鋼板建材	ベトナム薄板JV (CSVC)	*1,150 億円					→ 12年	
	インドブーシャン社 オリッサ PJ " 西ベンガル PJ	技術援助 FS中						→
	タイ カナドイル厚板ミル	[42億円]					→ 13年	
鋼管	ブラジル高炉一貫シームレス(VSB)	4.7 billion BRL (VSB 資本金)					→ 10/12 初製管	
							→ 11年央	
交通産機	インドクランクシャフト合併	*10 億円			● 10/4			

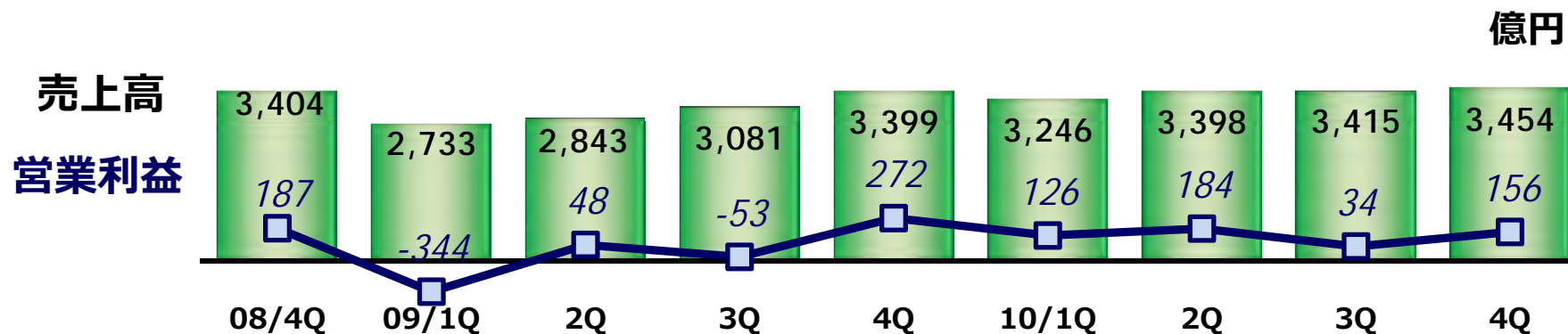
# 參考資料

# セグメント別売上高・営業利益 四半期別推移

億円	08/4Q	09/1Q	2Q	3Q	4Q	10/1Q	2Q	3Q	4Q
鉄鋼	3,404	2,733	2,843	3,081	3,399	3,246	3,398	3,415	3,454
エンジニアリング	41								
エレクトロニクス	62								
その他	110	171	238	178	211	169	122	104	112
売上高	3,618	2,904	3,082	3,260	3,610	3,416	3,521	3,519	3,566
鉄鋼	187	-344	48	-53	272	126	184	34	156
エンジニアリング	2								
エレクトロニクス	-34								
その他	7	-1	14	22	29	16	20	15	8
営業利益	162	-345	63	-31	302	142	204	49	165

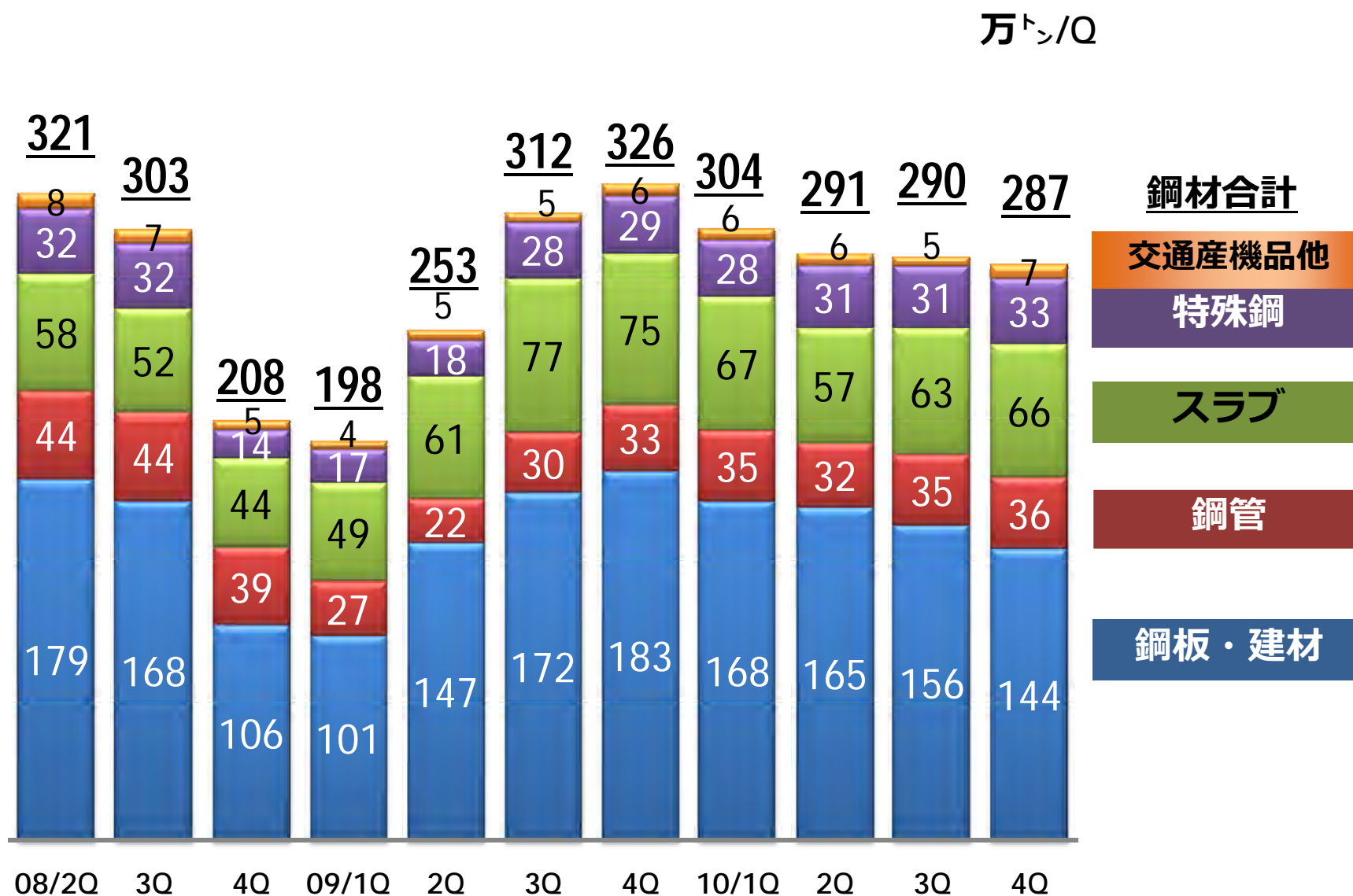
## 鉄鋼セグメント

営業利益率 5%    -13%    2%    -2%    8%    4%    5%    1%    5%



# 鋼材品種別販売量推移

※見通しは全て概数



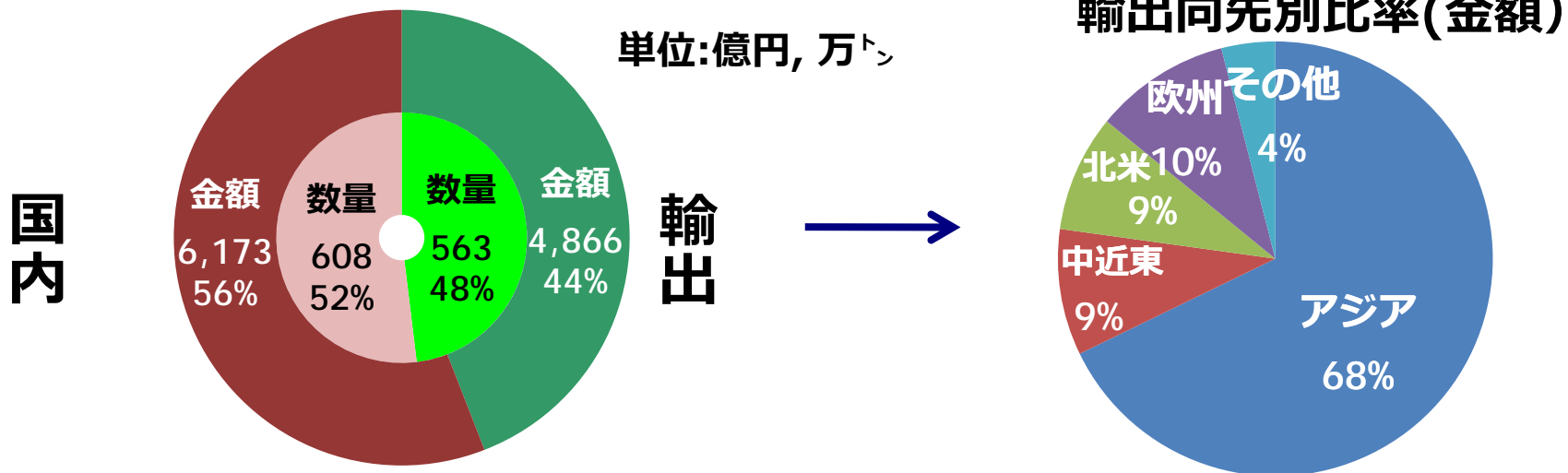
# 10年度 キャリーオーバー等の影響額

億円						09 年度					10 年度	年度 増減
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		2Q	3Q	4Q			
キャリー オーバー	△290	△80	△50	0	△420	190	90	△90	60	250	670	
評価損益	△530	△150	△160	△40	△880	160	40	60	△20	240		
原価差額 調整計算	440	△110	△160	△90	80	△90	20	70	△30	△30		
<b>評価損益計</b>	<b>△90</b>	<b>△260</b>	<b>△320</b>	<b>△130</b>	<b>△800</b>	<b>70</b>	<b>60</b>	<b>130</b>	<b>△50</b>	<b>210</b>	<b>1,010</b>	
期首戻し	200	450	270	160	200	50	50	40	70	50		
期末適用	△450	△270	△160	△50	△50	△50	△40	△70	△30	△30		
棚卸簿価 (低価法)	△250	180	110	110	150	0	10	△40	40	10	△140	
<b>合計 (概数)</b>	<b>△630</b>	<b>△160</b>	<b>△260</b>	<b>△20</b>	<b>△1,070</b>	<b>260</b>	<b>160</b>	<b>0</b>	<b>50</b>	<b>470</b>	<b>1,540</b>	

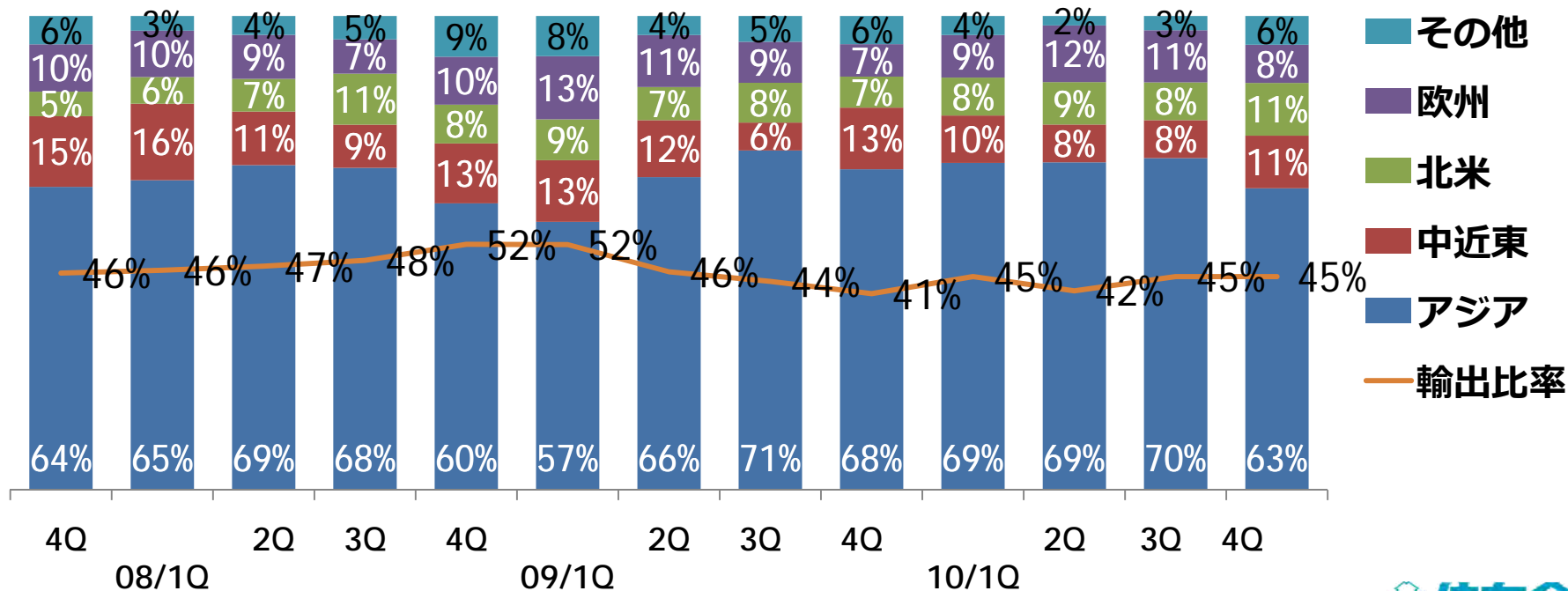
\*全て10億円単位概数



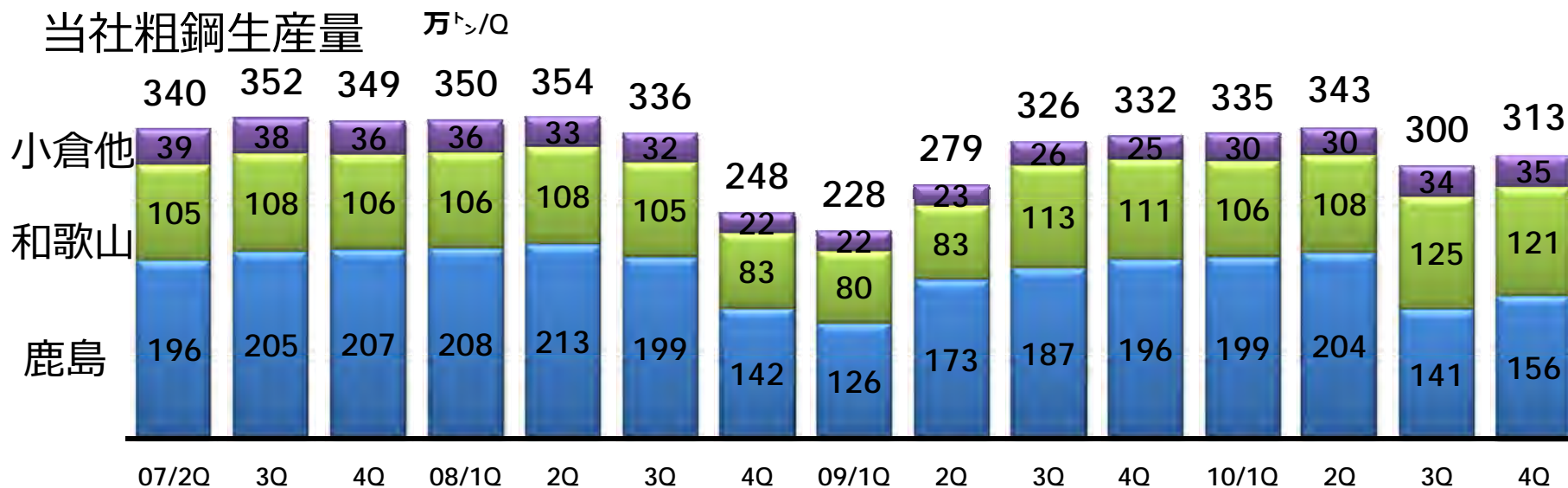
# 10年度 鋼材 国内・輸出別売上高



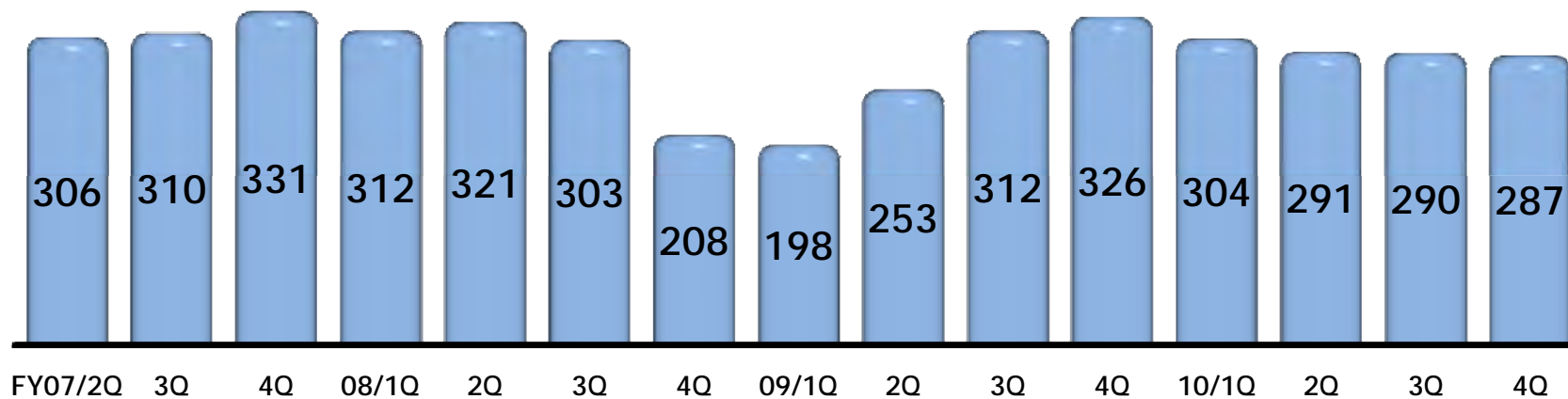
## 鋼材輸出向先別比率(金額) の推移



# 参考数值 (1)



当社鋼材販売量 万ト/Q

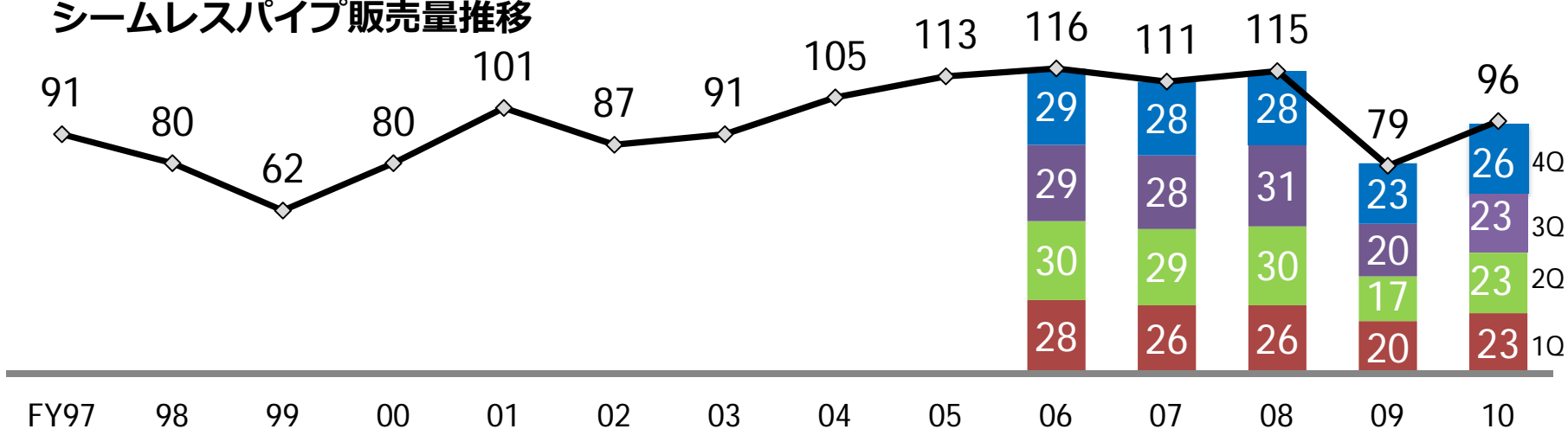


# 参考数値 (2)

## シームレスパイプ販売量推移

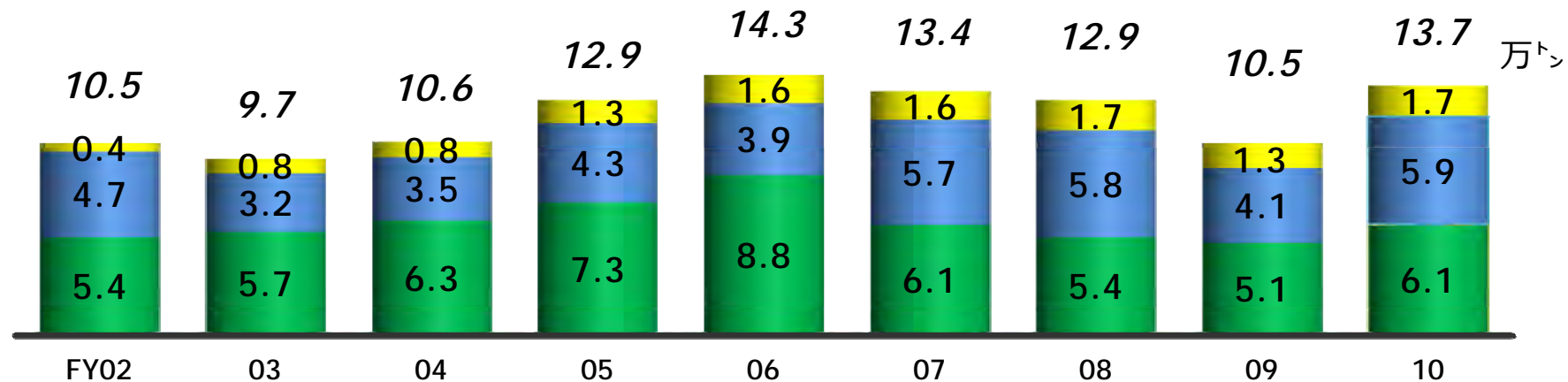
※見通しは全て概数

万トン



## シームレスパイプ スーパーハイエンド品 販売量推移

■ 高合金OCTG ■ 耐サワー鋼 ■ 13CR

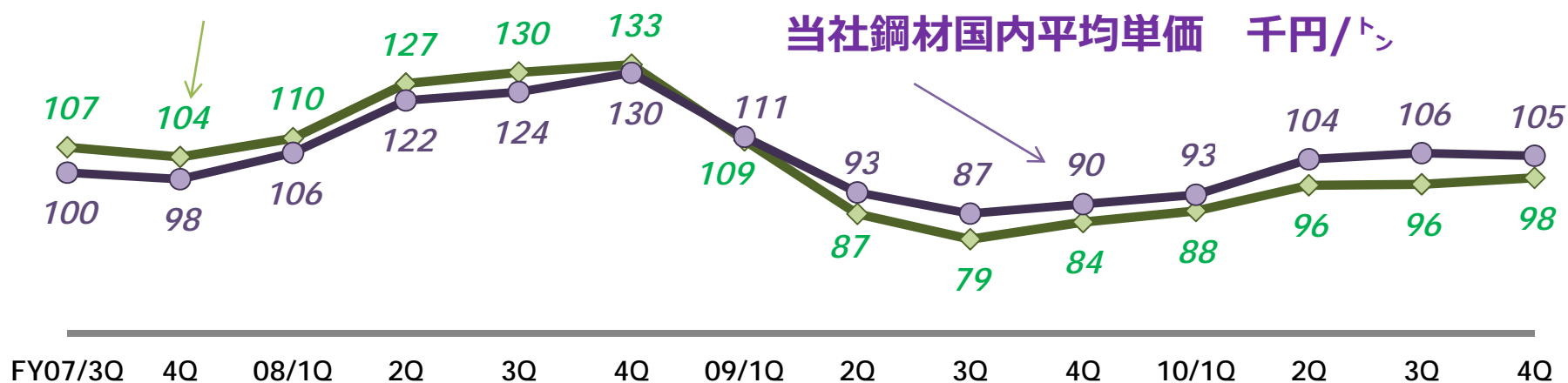


# 参考数値 (3)

※見通しは全て概数

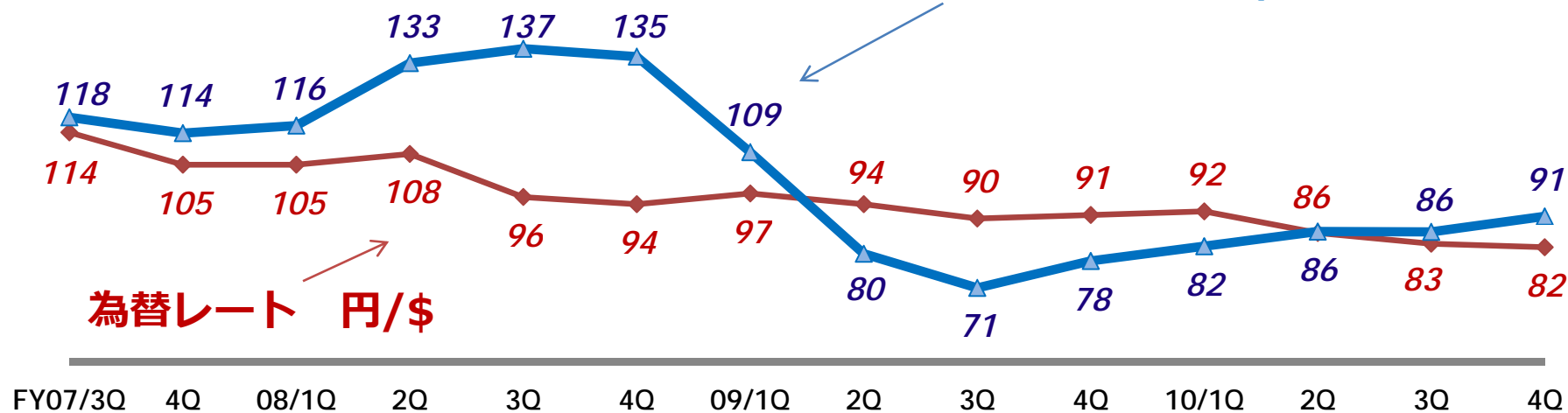
当社鋼材全平均単価 千円/トン

当社鋼材国内平均単価 千円/トン



当社鋼材輸出平均単価 千円/トン

為替レート 円/\$

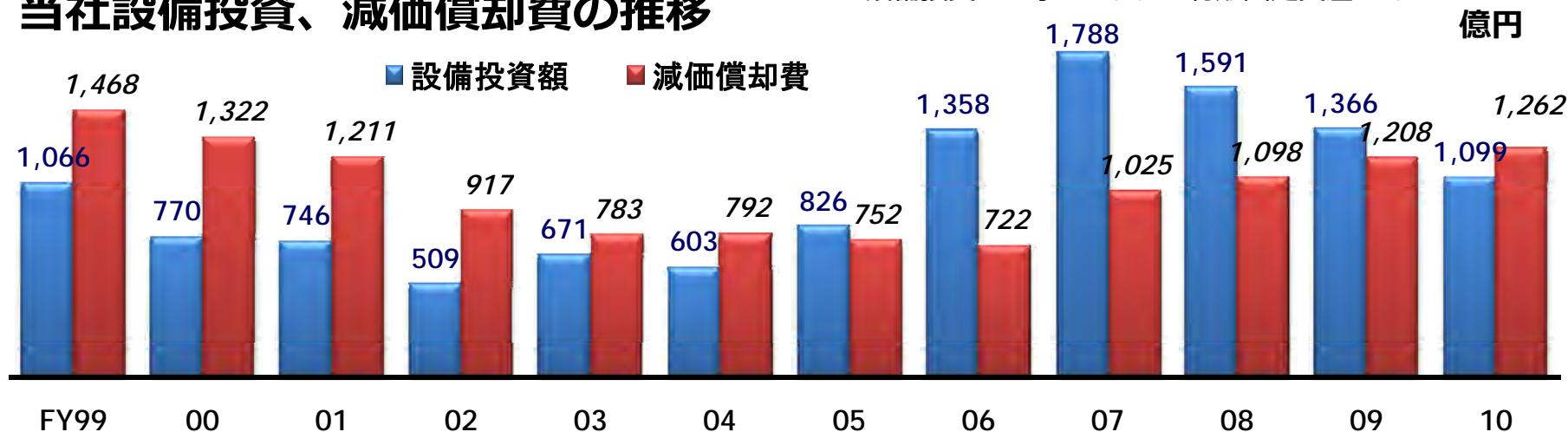


# 参考数値 (4)

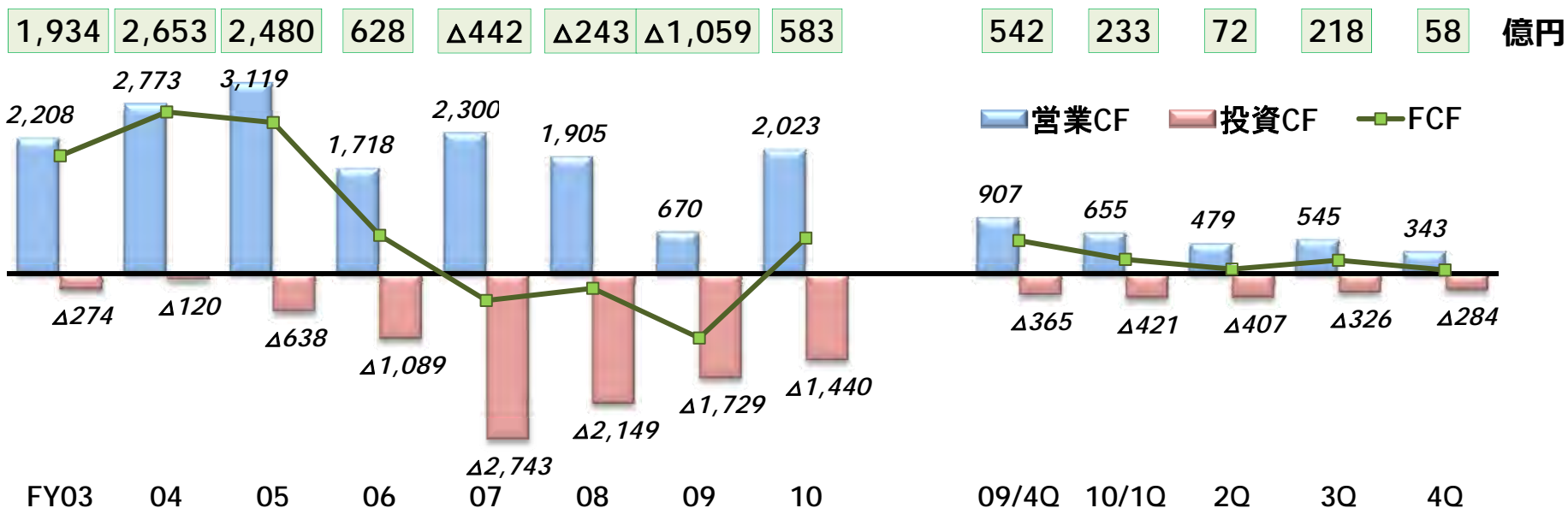
※見通しは全て概数

## 当社設備投資、減価償却費の推移

※設備投資は工事ベース \*有形固定資産のみ



## フリーキャッシュフローの推移



「質重視」による企業価値の  
持続的向上を目指す



ステークホルダーの皆様から  
信頼される会社へ